

東海連合支部

— 平成 26 年度総会関連行事 —

東海連合支部は、11月15日に名古屋駅前「嘉文」でご来賓の篠塚理工学部長と小松原副理事長を囲む「前夜祭」を開催し、翌16日に「KKR ホテル」で9時から、篠塚理工学部長、小松原副理事長、石川支部長、三浦副支部長の4名で「4者会談」を、11時から全員参加で「講演会・総会・懇親会」を開催しました。

「前夜祭」には平成年度卒業の会員の木村憲仁様（H5C）、坂井英明様（H14Z）の2名が参加され、「講演会」には木村憲仁様（H5C）、小島武夫様（H5C）、押見幸雄様（H11S）、谷口真市様（H12B）、川島隆輝様（H24K）、高橋望様（H23Pr）、斎藤志道様（H26）の7名参加され、遠隔地の連合支部として、老壮青が混じって有意義な一連の行事を催すことが出来ました。

前夜祭 関西連合支部の行事終了後に駆け付けてくれる小松原様の合流時期を勘案した篠塚先生のお心遣いからくる提案で、開催時間を18時30分からとし、到着順に乾杯を繰返しました。

先生のグローバルなご経歴に関する質問から始まり、最近の学生気質や海外留学制度など幅広い話題に及びました。

学生をグローバルで活躍できる人材に育てる方策の一つとして、夏休みを利用した、数十日間の海外留学制度を取り入れることを決定したそうです。

経費の面から当面は50名以下で実施していくとの話がありました。

また、先生から、英会話力向上のために、学生全員にTOEICを受験させることを実施し、平均で400点に上がって来たが、今後は450点を目標に教育するなど、具体的な育成方針などが披露されました。

100周年記念行事に関することもいろいろ話題になりましたが、現在は式典会場のみ決まったが、その他の詳細は検討中とのお話がありました。

さらに、参加者の多くが海外の工場を立ち上げたり、世界各地で技術指導に当たったなど海外で長く活躍した会員が多く、それらの会員や、現在も娘さんを海外に嫁がせ自分も海外を往復している会員などから、単なる旅行会話程度でなく、技術討論など英語で議論ができる人材を育てないと国際的に通用しなくなる等の意見も添えられた。

また、海外では十分な英会話が出来ないせいもあり、企業内やパーティなどでは、日本人同士で固まる癖があるが、会話力をつける必要性などが話されました。

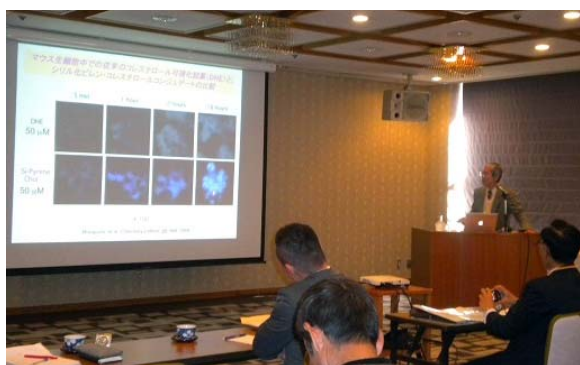
その他、話題は多方面に及び有意義な前夜祭でありました。



四者会談 石川支部長からの提案で、総会関連行事が始まる前の9時から10時半まで、小松原副理事長、篠塚理工学部長、石川支部長、三浦副支部長の4名で、100周年記念募金活動に関する話し合いが持たれました。

東海連合支部ですでに企業にアプローチして募金に協力を頂いてる会社や、群馬地域の活動状況の説明を受け、トヨタをはじめ、東海3県の企業に対するアプローチ方法など話し合いました。また、この5年間くらい群馬大学の卒業生を取っている企業は、群馬大学に関心があるので、寄付の可能性が高いので、これらの名簿作成も依頼しました。

講演会 別紙1の通りです。(関口岐阜支部長作成)



総会 最初に物故会員へ黙祷を捧げ、石川支部長の挨拶、ご来賓の小松原様のご挨拶に続き、審議・報告の部に入り、本年度の事業報告、会計報告、来年度の事業計画、予算案などが承認されました。小松原様から、100周年寄付の件や終身会員会費の件、企業説明会の件などのお話を頂きました。

特に、最近では学生の終身会費の納付率が90%から80%にダウンし、財政的に苦しくなっており、60歳以上の会員に年に1000円の維持会費の納入をお願いすることにしたなど、財政面の話を中心にお話を頂きました。

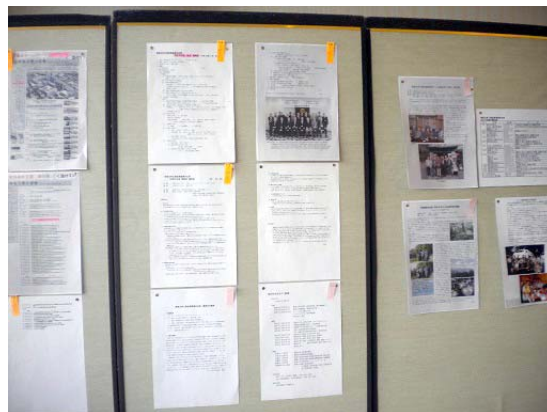
総会の内容は下記の通りです。

<別紙2-1>群馬大学工業会東海連合支部平成26年度講演会・総会・懇親会式次第

<別紙2-2>同上 講演会・総会・懇親会出席者名簿(含む前夜祭)

<別紙2-3>同上 平成26年度事業報告及び、平成27年度事業計画(案)

注) 会計報告、予算案等の資料は参加者に配布済みです。



懇親会 会場を名古屋城が真横に見える「名城観の間」に移し、バイキング形式の料理と酒を酌み交わしながら懇親会に入りました。参加者の 2 分間スピーチや自慢の芸の披露などもあり、最後に「関東八州」を肩を組んで唱和し、岡本様（39C）の一本締めで散会しました。



(作成：三浦 俊昭 39W)